

## オリコンサルHD さらなる成長へ投資加速 海外の事業領域拡大

オリエンタルコンサルタンツホールディングスは、良好な受注環境を背景に、国内・海外市場ともに事業創造・拡大のさらなる加速を目指す。国内は特に防災や水管理・保全など国土強靱化関連分野を確実に伸長させる。海外では需要が旺盛な軌道系を中心としながら、民間やアジア開発銀行（ADB）融資案件など非ODA（政府開発援助）事業領域の拡大にも取り組む。

11月29日に開いた2023年9月期決算説明会で野崎秀則社長は「2年前のサイバー攻撃に起因するシステムの再構築がおおむね完了したため、今後さらなる成長に向けた投資を積極的に進める」との考えを示した。国内、海外ともに当面良好な受注環境の継続が見込める中で、24年9月期の連結業績見通しでは売上高が前期比1・1%増の790億円、営業利益が5・6%増の41億円と過去最高を更新する計画だ。前期に計上した為替差益は見込まないため、経常利益と純利益は減益と予想している。

特に成長の推進エンジンと

なる海外市場は、23年9月期の受注高が前期比10・5%増の310億4100万円と高い伸びを示しており、受注残高も海外売上高の約4年分となる1194億円まで積み上がっている。国内を合わせた受注残高の総額は1505億7600万円となっており、今後も継続して安定した売上高の確保が見込めるとしている。

2030年ビジョン・中期経営計画に掲げる、30年9月期での連結売上高1100億円、営業利益70億円の達成に向けて、中間年となる26年9月期では売上高870億円、営業利益48億円を目標値に設定するなど、今後さらに成長カーブの角度を上げていく考えだ。